

支持的風土だより

テロワール Terroir

第17号

2020年7月7日
新潟市教育委員会学校支援課
支持的風土チーム

子どもと子どもが 支援的な関係を結ぶ

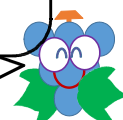
今年度は、「傾聴・受容」を基盤にした「支援」のある学級づくりを目指し、教師が「支援」の場を意図的に設定し、手本を示してもらいたいと考えています。

はじめに、今まで“テロワール”で紹介してきた「支援」の内容を再掲します。

支援

相手が困っているときには、だれかれなく進んで手をさしのべる。
相手の立場や状況、気持ちに応じた援助をして相手に自信をもたせる。
そのためには、「手をさしのべる」「時には見守る」などの相手の身になって援助することを心掛ける。

支援するとは、期待するとも言えます。
相手の可能性を信じて「待つ」「見守る」
「ゆだねる」ことも必要です。



子ども同士が支援的な関係にある学級の姿 とは…

- ・一人残らず学級の全員がゴールすることを学級の全員が目標にしている。
- ・だれからもいつでも助けてもらえる。遠慮なく誰に対しても常に助けを求められる。
- ・どの子どもにも必ず出番がある。

子どもへの指導のポイント

教師が手本を示し、子どもの望ましい姿を価値付け、価値観を共有しましょう！

- ・感謝の気持ちを「ありがとう」と言葉で伝える。
- ・失敗したら「ごめんなさい」と伝える。
- ・こんな声掛けを意識的にする。

「相手のよさやできたことを認める声掛け」

「相手を励ます声掛け」

「相手に期待をする声掛け」

- ・こんな気持ちをもてる雰囲気をつくる。

「相手ができるようになることがうれしい」

「相手ができるときには一緒に喜ぶ」

「相手の喜びは自分の喜びでもある」

「支援」の場を意図的に設定する

日常生活の中では、左記のような言葉掛けや雰囲気づくりを続けます。

同時に、子ども同士が「支援」できる場を意図的につくり、教師が子どもをほめる場面や、子どもが互いに励まし合える場面、認め合える場面をつくります。

そこで

授業時数の確保も気になるとは思いますが、学校行事や児童会活動等が予定通りにできない状況だからこそ、せめて学級全員で取り組める活動、みんなのよさが分かり合える活動、楽しくてやりがいのある活動を行う必要があります。例えば、「学級の旗や歌作り」「チーム対抗ゲーム大会」など一人一人がアイデアを出し合い、3密を避けながら協力ができるイベントを、教師の適切な指導の下で、子どもに話し合わせてみてください。きっといろいろな企画が提案されると思います。そして、そこでの「みんなで目標をもち、協力してやり遂げ、達成感を味わうことができた」という経験が、授業の中でのかわり合いにも生かされるはずです。